

『神様は良いお父さん』 エペソ人への手紙 1章3~23節 2018.3.18(献堂 11 周年説教(小林啓一師)より)

『教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。』

エペソ人への手紙 1章23節

創造主なる神様が天地を創られた時、それは「非常に良かった(創世記 1:31)」。しかし最初の人アダムとエバは、約束を破り、神様がわからなくなり、この世界に死が入り、辛く苦しい姿へと変質してしまった。しかし神は、元の「非常に良い世界」を、イエス様を通して回復しようとされる！高校の同級生にクリスチャンがおり、「なんか違う」と感じており(全てのクリスチャンには神様のスポットライトがあてられている)、大学に入り、19歳の時、KGK(キリスト者学生会)の集会で創り主について聞いた。議論の中でこの宇宙・世界が偶然にできたのなら、自分が生きていることに何の意味もないと考えさせられた。その頃自分は、パチンコ、マージャンと自堕落な生活だった。ある日健康を害して真夜中に救急搬送…。死を感じて恐怖した時、聖書の言葉を思い出した「わたしは甦りであり、命である。たとえ死んでも生きる」！助けを求めて叫んだ時、生まれて初めて本当の安らぎに包まれクリスチャンに。本田弘慈師の「万引きの次郎」の話で、万引きがやめられない息子を、竹で激しく叩いて罰する父の腕は腫れあがり血が流れた。身代わりに自分を罰する父を見て、次郎は変えられた。あの腕はイエス様の十字架だった。御子イエス様を代わりに罰して私たちを赦そうとされた神様は優しいお父さんだった。『主イエスを信じなさい。そうすればあなたも、あなたの家族も救われます(使徒16:31)』の言葉通り、振り返れば、親族11人全員がイエス様を信じた！何でも信じる祖母は、なかなか罪がわからなかったが、ある日自分の非を認め、その罪のために孔子やお釈迦様は死んでくれない！死んでくれたのはイエス様だけ！とわかった時、初めて自分の罪の赦しを確信し、3日後に召された。自分の罪の代わりに死なれたイエス様を信じた人は、天国を受け継ぐ相続者！今、お互いは、良いお父さんである神様からいただいた命に生かされ、キリストの体なる教会で結ばれる兄弟姉妹！それを実感できる交わりに歩みたい！